



広報

イキシア

2024年9月

96号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっとう心を集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

『教訓』

理事長 寺田 一郎

ご記憶のことと存じますが、今から二年前、二〇二二年九月に静岡県牧之原市の認定こども園で、当時三歳のTちゃんを送迎バスの車内に約五時間置き去りにされ重度の熱中症で死亡した事件がありました。

そして去る七月四日、静岡地裁では業務上過失致死罪に問われた元園長とクラス担任に対する判決公判が開かれました。裁判長は元園長に禁錮一年四月の実刑、元担任に禁錮一年執行猶予三年の判決を言い渡しました。

判決文を読み終えた裁判長は次のような言葉を付け加えました。「二人の仕事は人の未来を育てる素晴らしい仕事です。二十年、三十年経つても尊敬される仕事、その分、人の命を預かる責任は重い。Tちゃんはお父さんやお母さんを不幸にするために生まれてきたわけではなく、お父さんやお母さんを幸せにするために生まれてきました。教訓にするために生まれてきたわけではありま

せん。お父さんやお母さんの泣く顔を見るために生まれてきたわけではありません。Tちゃんの命は、子供の命を守る大切さを考えなければいけないと気づかせてくれました。この裁判長は声を詰まらせながら二人に語り掛けたということです。

報道では、「死亡した三歳の女児は入園して間もなく、バスが楽しいと二学期からバス通園を始めていた。父親からは「(バスでは)先生に言われるまで静かに座っていなさい」と教えられていたという。その言いつけを守って最後までバスに残り、職員に呼ばれることを待つていた可能性が指摘されている。女児は前から五列目の席に座っていたが、発見された時には前から三列目の席の足元に倒れていた。発見時には体温が四十度程度まで上昇していた。通園バスの中から空になった水筒が見つかっており、出入り口のそばの席には自分で脱いだとみられる衣服が残されていた」

傍点(筆者)の部分は、何度読んでも本当に胸がつまります。幼い子供なりに暑さ対策を必死にした、しかし言いつけを守っていくら待っても助けは来ない。どんな気持ちで数時間を過ごしたのだろうか。

この事件を受けて政府は、所在確認や安全装置の整備を義務付けました(二〇二三年四月施行)。

所在確認のためのバス置き去り防止装置は、ヒューマンエラーを補完する安全装置です。乗降時の車内確認は今更ながらの注意義務。このような事件の度に言われることは業務のマニュアル化です。この園でもマニュアルは作成されています。しかし、それが実践されていないのが事実です。

私たちの仕事でも、マニュアル化は重要視されてきました。それは業務を定型化し全従事者が情報共有することを可能としました。マニュアル化によってどんな場面でもどんなことが求められているのか、がわかります。個人的負担感を軽減します。後日の検証

にも役立ちます。

しかし、状況の変化に対応できないとたちまち形骸化します。今盛んにいわれるようになってきたカスハラも案外このような一面があるのかも知れません。

目の前で起きていることが理解できない、事態の進展を想像できないというときに事故が起きます。マニュアル通りにやったのに、言われたとおりに処理したのに、事故は起きます。想像力が不足しているのです。今、社会で蔓延している病です。

想像力不足とは、先が見えないこと、結果が想像できないことです。従って状況の変化に柔軟に対応できません。また、自分の十年後、二十年後の姿が想像できない、というように発展させれば今、努力をする意味が理解できません。(政治家たちには声を大にして言いたいところ...)

マニュアル化も想像力もどれも欠かせません。「Tちゃんは教訓にするために生まれてきたわけではありません(前述裁判長)」が、自分で声を出せない小さな子供や障害者の生活を支援するのが私たちの仕事です。「命を守る」という一人一人の使命を確認したいと思えます。

拠点 全体会議

本部拠点

本部拠点の全体会議が六月二十七日にパンプキンホールで開催され五年ぶりに五十八名の職員が一堂に会しました。

まずパート職員の永年勤続表彰では勤続十五年の山田白百合さん、五年の熊谷洋子さん、石原左親さん、石原伸江さんに感謝状とお祝い金が贈呈されました。

会議の本編では昨年策定したBCP（業務継続計画）の特に災害時BCPを、事業種別や地域性を反映させてより具体的な内容にアップデートするために、居住系・通所系・相談系・主任といったグループに分かれて討論を行いました。

ワーナーホームは、今年一



月に起きた能登半島地震被災施設への応援職員派遣もっており、会議に参加した職員皆が、災害への緊張感を持って真剣に取り組んでいました。

「被害状況の把握と必要な対応を見極めるための初期チェックリスト」「職員をまとめ、指示を出す指令塔の役割と職員間の伝達手段」「必要な備品とその保管場所や使い方の訓練」「利用者の状態を把握し個々に合った支援を継続するためのリストやマニュアルの整備」

「人手が足りない事業所への職員の応援体制」など、それぞれの立場で考えられる多くの視点から具体的な意見が沢山出ました。

この後各事業所で、議論された内容をもとにBCPをより詳細に組み立てることにあります。

(山岡)



千葉拠点

千葉拠点全体会議を六月二十日(木)に開催しました。二〇二二年度事業報告と二〇二四年度事業方針を各事業所より説明する前半と、自然災害発生時における業務継続計画研修並びに親睦会の後半の二部構成としました。三事業所からの報告は、二〇二三年度の事業実績とその分析や今後の課題をグラフにするなどスライドを用いて説明。研修は「地震発生時の職員対応手順書」の説明の後、実際に全員で発災時の行動をシミュレーションしました。フジエールの外倉庫にある発電機を取り出し、発電をしてラジオをつけてみました。その後倉庫にある非常食や防災グッズを皆で

運び、非常食は親睦会を兼ねて皆で試食をしました。

拠点内のほぼ全ての職員が一堂に会す貴重な機会のため、事業報告等では各事業所の強みは何か、所属以外の事業所は何をしているのかを知ってもらうことに主眼を置いて説明し、研修では地震発生時の対応手順をどの職員も分かるようにしておくことと、親睦の機会となるようイベント性を加えました。一度の動作で発電できた時には歓声が上ががり、非常食は小さいのに高カロリーなどの工夫に気づき感嘆の声が聞こえるなど盛り上がっていました。簡易トイレや防寒具など多様な防災グッズを全職員に配って終了。利用者のみならず拠点全職員を大事にしたいとの思いを込めた全体会議でした。



(末永)



カトレア会便り

会長 大屋 祥子

コロナが五類に移行して一年余り、マスク無しの姿を多く見かけるようになりました。皆様
の暮らしはいかがですか。

六月二日に定時総会が無事開催され役員改選により、日野会長と伊藤理事(副会長)が退任されました。任期中はコロナ禍
でご苦労が多く本当にお世話になりました。

後任として議事録の通り、古川廣中、萩原京子、井上守、有蘭延子、石川庄六、大屋祥子の六名が就任致しました。よろしく
お願い申し上げます。

役員を引き継ぐにあたり、「続、虹の約束」や「イキシア」
を読み返してみました。

カトレア会は「同じ悩みをもつ家族と年数回、一同に会
して睦み慰め合える機会を」という主旨で発足したこと。
親亡きあとのことが常に課題
になってきたこと等を改めて
心に止めました。

また総会後の交流会の中でカ
トレア会の今後についての意見を伺い、寺田理事長からは「会
員が一人になってもカトレア会
は続きます…」とのお話があり
胸に響きました。



② 学びの場

今年度の活動について

① 楽しみの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

② 学びの場

① 楽しむの場

新役員紹介

役員	大屋 祥子
会長	大屋 祥子
理事(会計)	古川 廣中
理事	有蘭 延子
理事	石川 庄六
理事	萩原 京子
監事	井上 守

カトレア会(家族会) 入会のご案内

カトレア会は、社会福祉法人ワナーナーホームの家族会で「①精神障害者の親の悩みは切実なものであり、同じ悩みを持つ者が、慰め合える機会が欲しい②社会復帰を目指す利用者に対し側面的な協力も考えていかなければならぬ」と(立ち上げ当初の案内文より抜粋)という目的で平成元年にご家族の有志によって立ち上がりました。皆様のご入会をお待ちしております。



新担当ごあいさつ

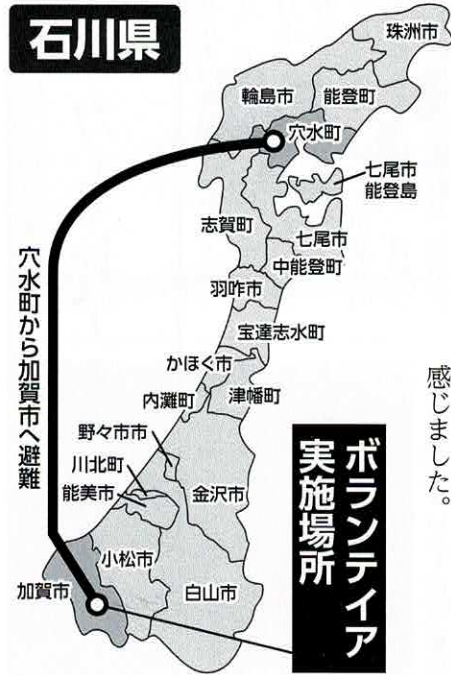
今年からカトレア会担当となりました橋本と申します。長年担当していた野老事務長・武藤統括施設長から引継ぎを受けるとともに六月二日に行われた総会の際にご家族のカトレア会に対する思いを聴き、この大役の重みを感じております。今後のカトレア会運営に当たり大屋会長をはじめ、役員の皆様とともに、ワナーナーホームとご家族の架け橋となるよう努めてまいります。

能登半島地震 福祉施設等に対する 介護職員等の 派遣

報告者：武藤朱里

（派遣日：四月二十二日～二十六日）

能登半島地震に伴う社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣として四月二十二日から二十六日まで石川県精育園の避難先である加賀市の錦城学園に行きました。



**ボランティア
実施場所**

石川県精育園は穴水町にある知的障害者の入所施設です。穴水町での支援の継続が難しく、錦城学園へは四十名の方が避難されていました。

業務は、掃除や食事の配膳など生活面の支援や利用者と一緒に散歩やカレー作りなどのプログラム活動を行いました。また、職員の方の提案により五日間を通して、利用者と一緒に壁画作りを行いました。職員の方は、慣れない環境で利用者が安心して生活できる工夫をされていました。利用者は「いつか精育園に戻るんだ」と穴水町の復興を信じていました。

地震発生直後、毛布をかき集め、利用者の食料を確保して対応されたことなど職員の方のお話は想像をはるかに超えています。震災が及ぼす影響を考えて備える必要性を感じました。

報告者：末永慎介

（派遣日：七月二十二日～二十三日）

七月二十二日（月）～二十三日（火）に石川県精育園の避難先にてボランティア活動しました。穴水町の施設は地震で壁などが一部損壊し加賀市の錦城学園に集団で避難。利用者は元の百三十名から四十名に絞り、九十名は他県のグループホーム等に入居としたそうです。

発災時は、勤務中の職員が連続勤務をして交替の職員が来るのを三日程待ち、断水により排泄物の廃棄方法に困り、洗濯ができず汚染されると廃棄し支援物資の服に着替えてもらうなどしたとのこと。

職員の不足を補い職員の休みを保証するためにボランティアを導入。私は、入浴介助や散歩の同行、館内清掃、食事準備、ビーズ遊びなどをしました。ボランティアがいてくれたそうです。

三月四日（月）から現在の環境となり利用者は落ち着いたようですが、職員は元の施設にいつ戻れるのか、自宅を再建できるのかなど気を揉んでいる様子が、復興半ばを物語っていました。

わーなー日記

《ホレブデイサービスセンター》

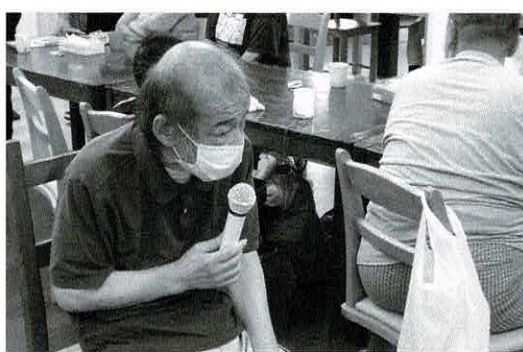
ホレブデイサービスセンターは、三十年以上前からワナーホームを利用していらっしゃる方や、地域で生活されている方など、様々な利用者がいます。居住の場と日中活動の場では少し違った雰囲気も見られます。その姿に職員は、驚きや癒しを感じています。

ある男性利用者は、高齢になり、歩くのも休み休みですが、ゲームでは、バスケットなどスポーツ系を得意とし常に上位に入ります。Wiisスポーツでは、難し過ぎて皆が断念する中彼だけが器用にこなし、皆からは拍手喝采、喜ぶご本人の笑顔は、



心温まります。静養室で横になることが増えた女性利用者は、頭の若返りプリントが好きで、難しい問題も難無く解きます。送迎や支援の後には必ず「ありがとうございますございました」と言ってくれます。その言葉に職員はやる気が湧いてきます。その他、物静かな利用者がカラオケでは必ず十八番を歌ったり、行事の際は洋服を新調する利用者がいたりとデイはほっこりが溢れています。

これからも、利用者のみならずが楽しめる活動の場所、いろいろな自分を表現できる場でありたいと思います。（比佐）





ペジューブル茂原

9月1日より秋の新作を発売します。

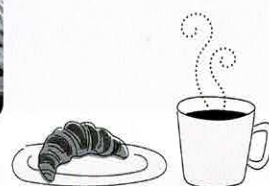
きのこのアヒージョ：ヒラタケ、マイタケ、エリンギ、おな
しめじがたくさん入っています。ガーリックソースとの相性
抜群です。

大学芋あんコッペ：大学芋とこしあんのマッチング、和菓
子のようなパンに仕上がりました。

サーモンフライドッグ：秋鮭丸々1本乗せちゃいました。
他にも秋らしい商品を多数ご用意しています。



ペジューブル カフェ 特集



ペジューブル鎌取

8月19日～ あんぱんフェア

- 胡桃あんパン…¥180
- 温州蜜柑あんぱん…¥190
- とことん甘栗あんぱん…¥190
- コーヒーホイップあんぱん…¥180
- 塩豆黒ごまあんぱん…¥180
- 紫芋あんぱん…¥170

OPEN 10:00 ~ 16:00(月~金曜日)

来店お待ちしております。



サンドウィッチカフェペジューブル柏

夏メニュー2選をご紹介します。

爽やか酸味がクセになるフローズドリンク、ブラッドオレンジスムージー
¥400(写真右側)と、濃厚なアップルマンゴーの甘味とゴロゴロ果実が
嬉しいマンゴースムージー¥430(写真左側)を販売中です。まだまだ暑い
この季節に是非ご賞味ください!



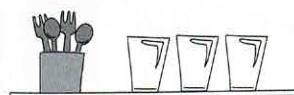
ペジューブル柏

サマースティックをご紹介します。

ヨーグルトの酸味とオレンジマーマレードの爽やかな
甘みが暑い日にピッタリなパンに仕上げました。

9月末までの期間限定商品です。

サマースティック¥220



ブーランジェリーカフェ ペジューブル

開店11周年記念 アフタヌーンティープレートを紹介します。

8月1日(木)~9月30日(月)の間、周年記念恒例のアフタヌーンティープレート¥2,000が
始まります。

内容も去年とは装いをかえて登場。猛暑のひとときをカフェペジューブルでゆったりとした
時間をお過ごしください。

拠点のイベント

祝 ペジーブル高田一周年

Sandwich café PAISIBLE

高田店は、昨年の七月二十五日にグランドオープンしてから一年が経ち、お客様に感謝を還元するため、七月二十三日～七月二十七日に一周年祭を実施しました。周年記念ドリップコーヒーのパッケージはペジーブル高田の利用者と、すすくの子供たちも一緒にデザインに参加し新たに作り、みんなで企画準備をしました。周年祭期間はくじ引きや景品お渡しなど、普段と違った接客を楽しむ利用者の笑顔が見られました。お客様からは一周年おめでとう！また来るね！とうれしいお言葉もたくさんいただきました。オープン当初は少なかったメニューも、今では高田店オリジナルのペジーブルバーガー



や手作りのジェラートを六種類も用意して、大好評です。最初は一緒に店舗で働くことが難しく、お客様の前でとても緊張していた利用者も、さまざまな経験を積んで接客はもちろん、料理提供や仕込みなどいろいろなことをやってもらえるようになりました。これからもお客様や地域の方々と共に利用者が楽しく働けるお店にしていきます。



二〇二四年納涼祭

八月三日(土)に納涼祭を開催しました。今年の納涼祭は「こらでちよっと一息！夏祭り」がテーマでした。職員、利用者、家族みんなが、笑顔で和める祭りとして、職員一人ひとりが協力し合い準備を進め、当日を迎える事が出来ました。気付いた方も、初めは緊張していましたが、初の試みで抽選券を手作りうちわにしました。また、コロナ感染対策で今年度も地域の方は呼ばず、法人内のみとなり



ましたが、皆で盛り上がった納涼祭となりました。(町山)

防災訓練

六月十二日水曜日に一号館合同防災訓練を実施しました。わたげワークスとたんぼセンター合わせて二十二名の参加がありました。今回は、起震車呼び最大震度七の地震を利用者、職員共に体験することができ、利用者からは「怖かった」「東日本大震災を思い出した」という声も聞きました。他、消防隊員による質疑応答や動画視聴を行ない、参加利用者の真剣に取り組み姿が見られました。今後も、



防災への意識や関心を高めていけるような訓練を実施していきたいと思えます。

B B Q

六月中旬に恒例のバーベキューを行いました。利用者と職員を合わせて十五名が参加し、楽しいひと時を過ごしました。

当日は、雨の心配もなく、庭で調理を希望した利用者と一緒に火起こしをし、肉類や野菜を焼きました。食堂では、海鮮類のほか果物やデザートも調理しました。焼き上がりの香りが食欲をそそり、お替りの声や笑顔が溢れました。
 次回は、「自分で調理して

社員旅行

「様々なハンディがあってもチャレンジできる！皆と一緒に海の中の自由な世界を体験しよう！」がテーマの社員旅行として、就労メンバー八名が静岡県伊東市にてダイビングにチャレンジしてきました。総勢二十六名の現地ボランティアスタッフが方々に支えられてダイビングとドルフィンスイムを体験することができました。車いすから降りて海の中で自由に身体を動かす様子や海に入った時の満

食べて楽しむ」というバーベキューの醍醐味を参加者全員に味わって貰える企画を立てます。
 (森川)



点の笑顔、イルカに触れた時の驚きの表情を見て、今後も彼らの挑戦に冒険に伴走したいと思いました。



ワナーホームの主な動き

《五月》

- ・春レク(ユニモちはら台)ノワークシヨップ茂原
- ・春レク(きぼーる、バイクオーレ)ノワークシヨップおおあみ
- ・きんたろうまつりノペジール柏
- ・お出かけツアー(小中池)ノホレプデイサービスセンター
- ・スイーツ同好会(ミスタードーナツ)ノ長生地域生活支援センター

《六月》

- ・BBQ(ぶらり庭)ノぶらり
- ・イチゴ狩りツアー(Moss Garden)ノわたげワークス
- ・防災訓練(起震車)ノわたげワークス
- ・理事会
- ・評議員会
- ・バーベキューノペジール高田
- ・すくすく遠足(アクアワールド茨城県大洗水族館)ノすくすくハウス

《七月》

- ・城西国際大学の学生と交流会(城西国際大学)ノホレプデイサービスセンター
- ・カラオケ(うたきち)ノ長生地域生活支援センター
- ・夏レク(一宮IC・ヴィラネ

とぼろ・小湊鯛の浦遊覧船

- ノワークシヨップおおあみ
- ・社員旅行(伊豆)ノペジール高田
- ・お出かけツアー(サンライズ九十九里)ノホレプデイサービスセンター
- ・アリオ市原に行こう(アリオ市原)ノ長生地域生活支援センター

《八月》

- ・夕涼み会ノすくすくハウス
- ・納涼祭ノ本部拠点
- ・お茶会ノホレプデイサービスセンター
- ・一宮花火大会(一松海岸)ノ長生地域生活支援センター
- ・ボウリングに行こう(ヤングボウル)ノ長生地域生活支援センター



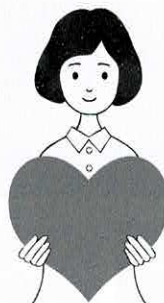
イキシア入会のお願

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回(一月・五月・九月)発行されます。

〈会費〉

賛助会員 三,〇〇〇円(年)
正会員 一〇,〇〇〇円(年)



編集後記

イキシア九十六号をお読みいただきありがとうございます。今年の夏はパリ五輪の話題で利用者さんと盛り上がりました。イベント事があると暑い夏も楽しく乗り切れますね！今後ともイキシアをどうぞよろしくお願ひ致します。

(N)



発行所 ワナーホーム イキシア会

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <https://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎